

本草綱目

成形圖說

菜蔬部

二十二



特別
= 1
144
21



門=加 /
號 /44
卷 221

成形圖說卷之二十二

目錄

芋イモ 附海芋イモ

薯蕷ヤニツイモ

蔓芋ツクチイモ

黃獨ケイモ

土芋ホド



成形圖說卷之二十二

成形圖說卷之二十二

菜部類蔬

伊毛 万葉集 蕨 葉 是 伊 毛 萬 葉 集 蕨 葉 是 伊 毛 萬 葉 集 蕨 葉 是

宇毛 和名 觀 儀 式 宇 毛 和 名 觀 儀 式 宇 毛 和 名 觀 儀 式

家津 芋 和名 觀 儀 式 家 津 芋 和 名 觀 儀 式 家 津 芋 和 名 觀 儀 式

白身 艸 露 取 艸 白 身 艸 露 取 艸 白 身 艸 露 取 艸

也 秋 勅 撰 葉 子 也 秋 勅 撰 葉 子 也 秋 勅 撰 葉 子 也

葉 正 音 子 葉 正 音 子 葉 正 音 子 葉 正 音 子

通 利 子 通 利 子 通 利 子 通 利 子 通 利 子

この 属 芋 頭 多 識 編 芋 頭 多 識 編 芋 頭 多 識 編

芋 頭 多 識 編 芋 頭 多 識 編 芋 頭 多 識 編 芋 頭 多 識 編

成 形 圖 說 卷 之 二 十 二 二

芋 土芝 以上 蹲 史記注芋也蓋芋魁之狀若鷓鴣之蹲

謂之蹲 鷓鴣前漢謂之芋魁後漢謂之芋渠 顏氏家訓云江

南有芋一權貴誤讀本芋魁蜀都賦注蹲鷓鴣芋也乃為芋字人饋

羊肉芥曰芋魁 同芋魁義同 芋頭 本芋 救荒 芋草

謝饋蹲鷓鴣 芋魁 作芋渠渠魁義同 芋頭 本芋 救荒 芋草

援神契仲冬日卯星中收芋芋 ○說又齊人呼芋為芋 ○本

艸和名引兼名苑芋一名相芋相蓋芋後芋三年不取

ハ為相芋 早芋 綱 家芋 本經 土芋 名物 茄蓮 群芳

苗英 廣雅 田芋 明屠本峻 芋子 齊民要術四邊附 芋

藩名カルフスフト ハニ エゲイボテ 伊毛とは夫夫婦小ても兄弟小ても又他人にてと男と

女と雙べる時子と女と抜いて云稱あり 仁賢紀古者不

言兄弟長幼女以男稱兄弟男以女稱妹也兄之妹也

夫より妻と抜いて妹といひし長者を長兄と稱し之を

出づり今我兄我姉と書紀の女子と云と左日記と

姉と呼ぶごとく女子と云と西州の俗器と云とと

と東國はて女子と云と西州の俗器と云とと

と指せし詞あり 遂に芋とも伊毛といふハ子生ある

義子つ希て同する也 釋增基が熊野紀の志と云う

この人の許はいささればおほむ管中んとて碁石筍の

大きさをいふのかしととり出てやうを此といふ

のえと云へば多乳れ甘さやゆりじといへむ人乃子

みくそ食せぬといひて理當とれむ云々 今常陸越後

成形圖說卷之二十二 三

芋子とはとろく呼ぶ子を生されば時とゆれ新
と云ふ挿せる舊子價言ありと云ふ
年の元旦に芋蔓以て筆ると幸子孫繁昌乃祝儀あるべし
土俵日記元旦の下子いとしゆめも園をなしかう
やうの物をかき園也かしとおかどと云ふ
正月の内膳式
滑海藻二、西二分とゆり今元旦は芋と荒布ありハ飯大
根堅節おどに海苔と加へて食ふ國々小の葉あり
れど芋芋とは用ひぬ○四民月令云正月可茹芋○凡
芋に早中晩の属水旱の二種ゆりも品扱十名ありて大
小と云く長き芋の異又は味ハ美地道の厚存に因て
法道同しからど但種もは二月春分の頃に芋料を埋
窖あり出して芽立よき日曝し芽乃缺ざるやう小

し亦尾乃爛るハ切去て灰と附つ、醜區に馬牛の踏
穰と布之上に蒔るあり必馬地と書て宿土を蟻ふ増緩
あると撰ふおとを幸芋う、るハ本中の葉土おど成
持入るとのあれを底に書と地てあらし○早芋は七
月生靈會の頃に熟て申ふありハ八月子及て取せ早
子ハ鶴児芋てふおのと上等と云ふ
仲芽也き分なり名と
俗言陸
躄鶴と云ふ相似と云ふ○一種美賀志伎芋ゆり
菜芋也
ひき芋か子かく根より蔓のおど四方へ筋と延してそ
ども味は淡き芋を生じ極るも其筋を畠子漫撒し上あり
踏穰糞堆の類を覆ひ密は中夏の際には既に其茎と引



紫芋

抜つ、蔓料子割用て少々養味あし本州和名引廣志早
 芋七月熟と見えしは即早手芋のおとぞ
 芋細目引廣志早
 は九字誤
 赤芋根茎とさし紫色
 栗芋和州栗島園わうると云○
 食鑑云生食甘美不養如生
 栗及鳥芋○園舎子麩芋と出し大和本州の
 蓮芋一名栗芋とあるもそのみて芋の上等也
 衣被芋皮
 かりさるる名栗芋とあるもそのみて芋の上等也
 都芋日向わつりみて移上南
 思遠に養と思養と云
 肥後あ
 真芋肥後あ
 唐本州○齊民要術引廣志云淡喜芋魁大如瓶少子
 紫芋葉如散蓋紺色紫莖長丈餘易熟長味芋之最善者也
 莖可作羹腫肥滋得飲乃下○本州和名引兼名
 苑長味芋一名淡善蓋亦紫芋の輩あるべし
 赤いおは高三尺おのあ六尺おむるは料大注の如し
 紫芋
 紫芋



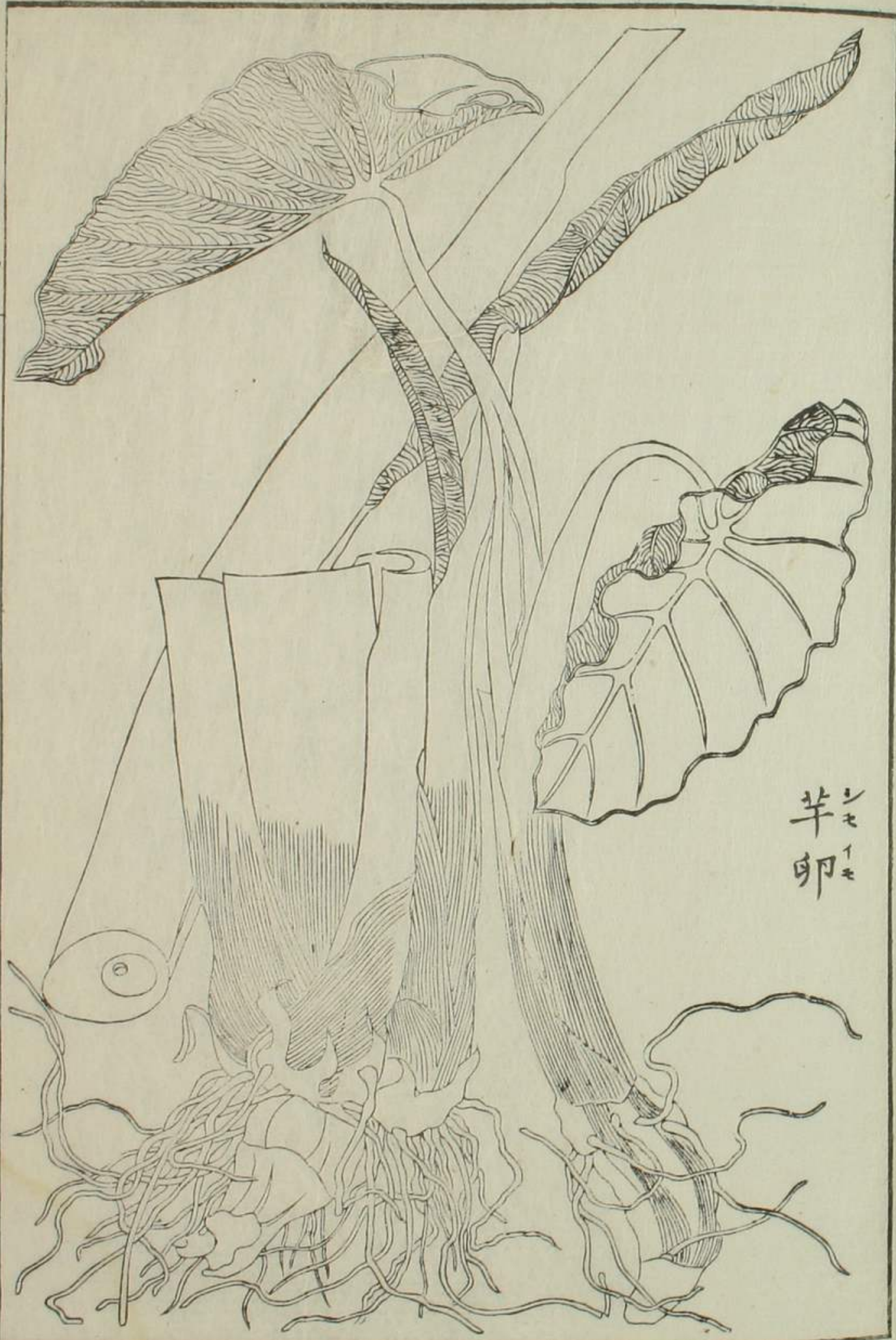
早芋 ワサイモ

衣被芋 キヌカツキ

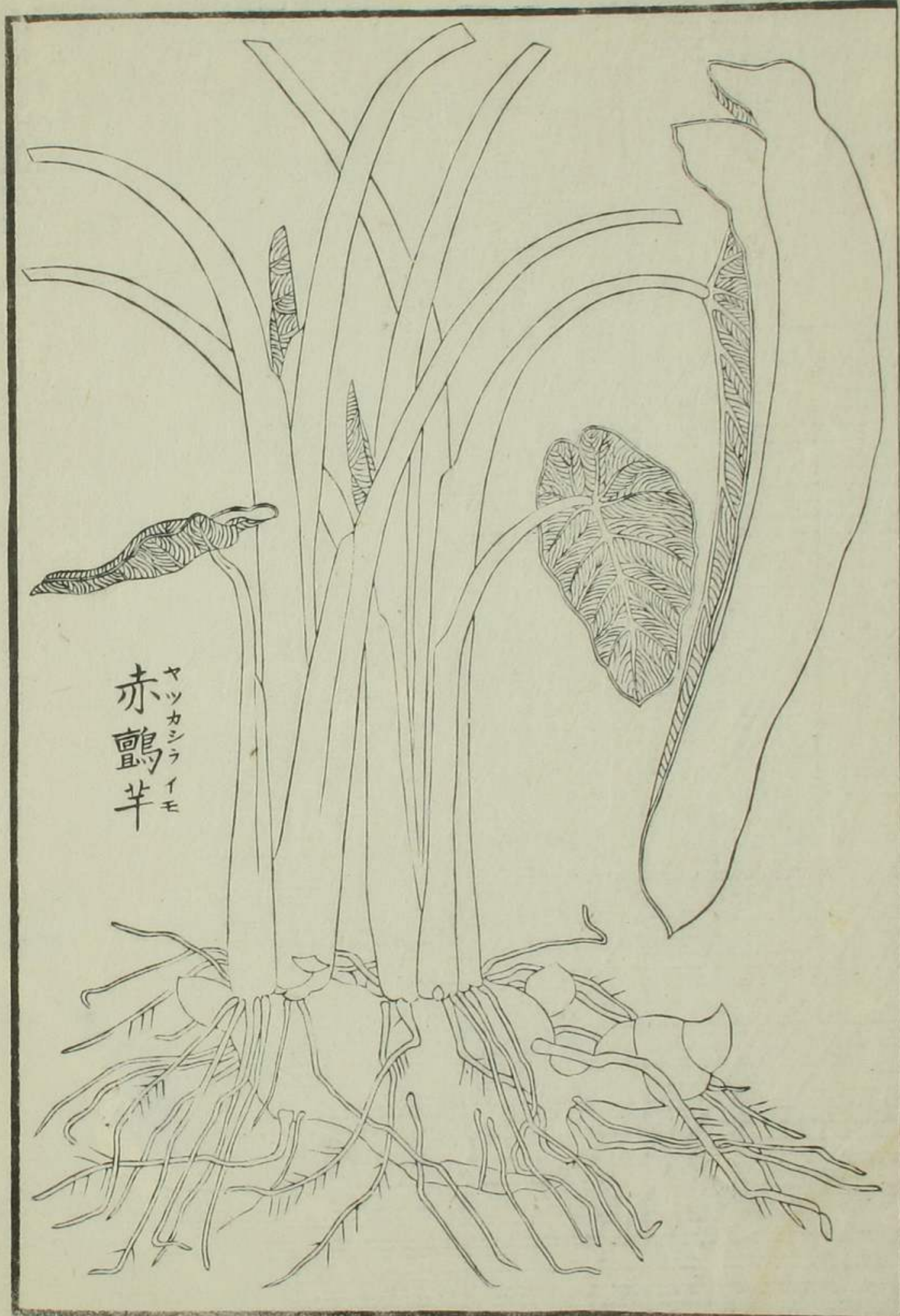


芋苗英 スイキ

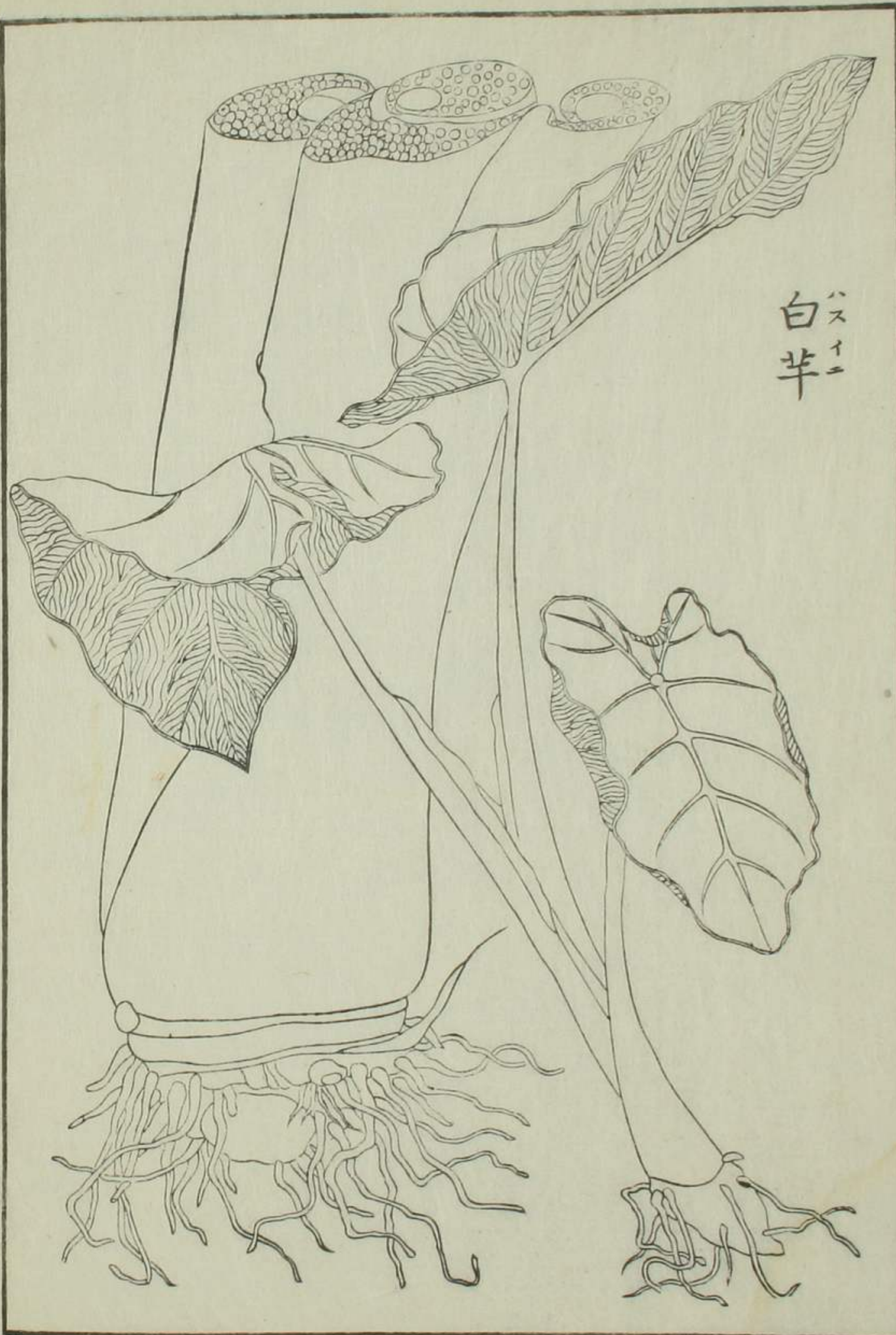
魁芋 オシグワイモ



七



白芋



地深は長く浅くは短く此の黒皮厚く毛多く肉ハ
 白し絲々黄ふく味柔滑あり又栗芋クリイモと云種ハ生ふがら
 毛食ふべし京師近郊ハカキ離區ワキに多し引て貯るもの味
 小莖肥ニ方し四寸シに取用ト農政全書王禎云芋葉如
 亦中食根白亦有紫者其大如斗食之味甘旁生子甚夥拔
 之則連茹而起宜蒸食亦中為羹膳東坡所謂玉糝羹者此
 也煮法宜先用鹽シ微シ滲シ則シ不シ摸シ糊シ
 八頭芋ハ亦シ曰シハシ口シ又シ親シ附シて對シるシ名シあり
 此の魁シ扁シく一頭シ子シ數シ芽シを生シにシ取シるシ名シとシ以シ莖シ少シ密シく
 尾シ細シありて下シ子シ芋シ支シ出シあり○切シ芋シと云何シのシ料シとシ幾シ
 小シ切シ分シて灰シを塗シてうシるシものシを肉シ赤シく粘シわシるシおと

餅の如し廣志子赤鷄芋即連禪芋魁大子少い白
 芋の種さど云ハ切芋
 の種さど云ハ切芋
 穴芋は皮薄し穴書紀子通凡植る時圃中と一所ハ
 と掘窪て母料を色加み名と以大なるハ尺子短き可
 音頭芋魁極て巨なるハ尺五寸同子色て色さ色子
 称し皮薄く味も菲く子少し大偶種高小産るは高大き
 く頼巨みて長し大木木子法螺芋とて白芋を出次大
 さ尺微長し味赤芋乃如しと云るハ是等ハ人
 有魁芋無房子○農政全書云君子芋大如斗魁如杵菰又
 威頭芋根株大高可四五尺魁大子少と凡え
 霜芋是亦日島芋蓋志ハ菘芋也樹小也此芋中の申手か

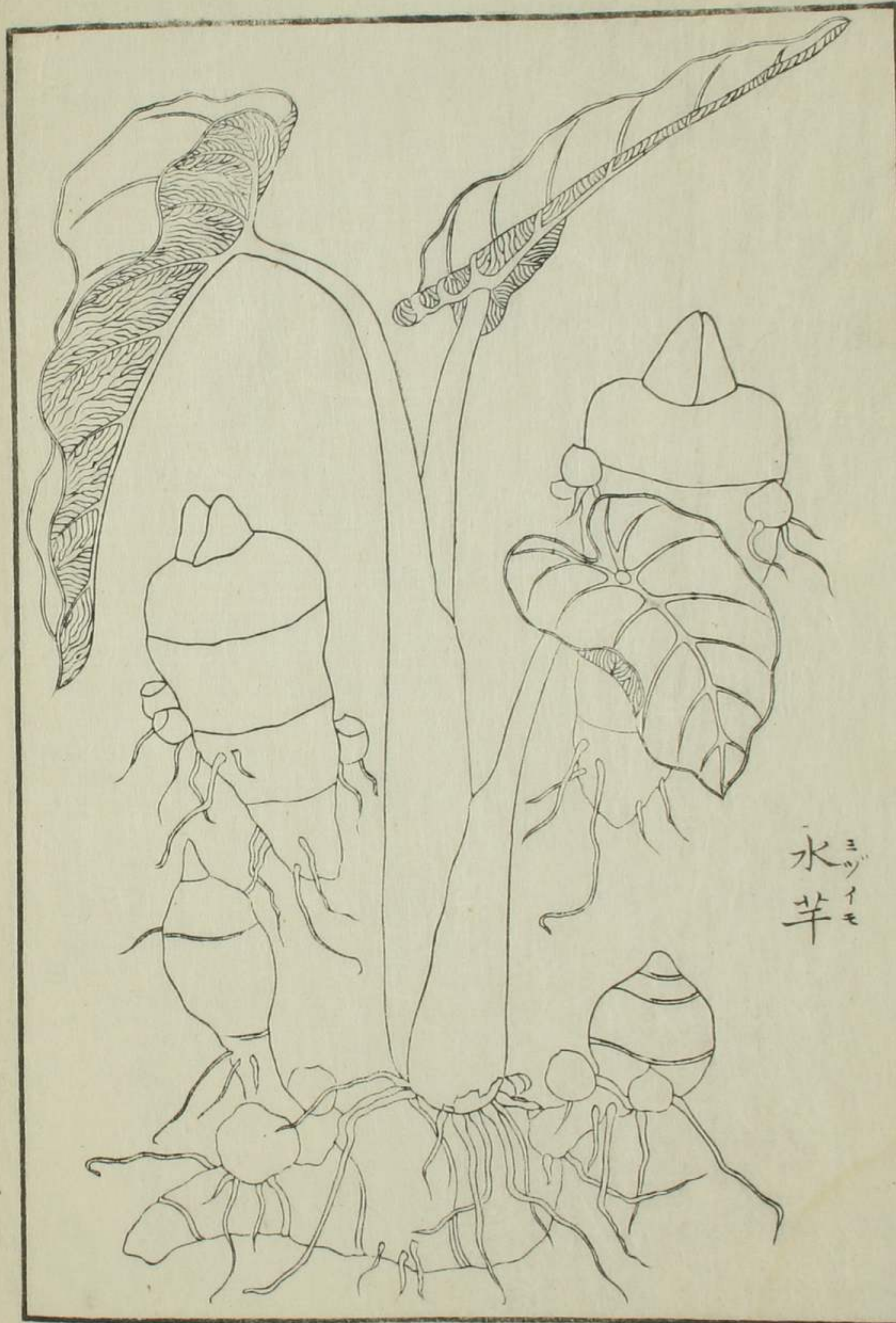
可茎高りらむ莖葉と云み淡甚し味酸くて人の咽
 戦ハハかく子は根と環りて多く附り皮薄く毛な
 し外は黄白色小肉白し清人は是芋卵或ハ芋仍と云中
 夏の頃出はるもの味よし秋に到りて子熟れば稍劣る
 小能好れ尤明春に及びて食用に供ふハ唐本州の
 青芋と云るは即此ものあり○島芋と根芽芋製法初
 春圃を掘去と二尺五六寸馬の踏糞を厚五寸布て肥
 を澆ぎ土を少し入て其上に芋頭と稠と排て土と蓋ふ
 而漸々芋と奈以時篩る細土と毎日其上より振ひ培
 る志ウセぐれば芋の白莖黒斑を生以故凡これと

掘子は芽の大なるものなり引取ると冬度一に普ふものなり
 九月十月ふらる也 山田は島嶼の粟の類なり
 蓮芋 内畿 莖乃芋 西州群衆の根をくると 莖と 透莖何芋の類と云
 名かれと蓮芋にて 採用する根をくると
 作さる珠み名多し 不可食、莖、
 白芋 目細 素芋 農政全書素芋子、不可食、莖、
 蕃名ケレイン スペール ウアルテル
 此の種子かし春暖と好て宿根より芽を發し高三尺
 許の至り の子芋と植ハ本年 莖葉の形もろくて淡紫色
 か夏は剥きし又幹の中 荷茹のおと 孔のゆるとて蓮芋
 の名も頗る生かぢ魚生子 仲い醋醬に和て食ふ 夏秋

の交亦一乃佳蔬と好む煮は生に及ぶ○此の秋乃
 季霜のに湛かんとはは株の上に種乃單三つ、其後
 小種子と芽のべし ホカ に埋るは所し、
 田芋 水芋並み水田の中に
 水芋 細目時珍云水芋味勝莖亦可食、 麵芋 南寧府志
 此の東西は子暖地水中に蒔る也或は稲田の隙に培
 へり形青芋に似る莖僅ち尺許葉乃末子舊葉の生を
 味 味 芋 肉 交て養と次○南嶺者之と嘗る 味多ハ
 此芋は 風損 蒔る子は芋此土頭涯を一二分切て莖



海芋 イシイモ



水芋 ミツイモ

と一寸許抄し切にどは田子打没まばそをの復芋と成
 内沖繩等乃婦女蓀と手引てふ金籠を提ぶとて
 葉の事とおおしフクシ田に下で芋焼大あると擇と引と
 て根鬚の四邊を因鋤て上つ、小のほ田に殘し重て
 三年一收去とせ又婦女布帛の縷を深むを色や赤褐みく
 千回百取院空いへどと脱び倘その莖或吾家に採わち
 子て深る時は色と変る要唯そ不に就て且折且深ら
 也重國子此芋希しあ石垣島かどみて麻絲を深るみハ
 子浸液のぬくし絲の白くを所は紫切てカウ口の汁
 口の事以守はて是は本州の猪查必究て後沙み為乃登々
 伎と削せしとぬとおとをの猪查必究て後沙み為乃登々

伊毛志延喜式○即芋莖也土九日記芋柄和名受伊

伊毛志延喜式○即芋莖也土九日記芋柄和名受伊
 受伊延喜式○即芋莖也土九日記芋柄和名受伊
 受伊延喜式○即芋莖也土九日記芋柄和名受伊



芋莖の皮と去りて乾する也霜を經しほハ皮と削み及
 ぶ今福津如泉大和江等の國より出るもの色白く莖
 也して味饒美し就中蓮芋乃莖の製するハ色を好り
 肥後遠莖高し或ハたすれ○芋幹赤小豆と入る
 養とが汁と云ふし休伊毛し乃好りて約する也○農
 政全書云芋幹剥去皮乾之蔬茹中上品又云煮芋汁洗膩

衣潔白如玉○石と穿裂ウキサリハ火ヒをて芋イモ茎カネと石イシ上ウヘをて焼ヤクき
熟ウツク小糸コイトて是コトと鑿ウツク鑽ス也○芋イモ花ハナは色イロ黄ワウく旁ワキに捲マキ葉ハの如ニき長
子コ薯イモ河カハりく之コトと備イのり凡ツ芋イモ料カネハ一ツものトと三年シツ後ノチて裁カき
は花ハナ開ヒて七シチ根ネハ腐クサ已マ純ス○細コ目メ云ク種タネ芋イモ三サン年ネン
十ジュウ種シュウ必カナラ以ヨリ漢カン名ナと查シ究キウ也ト且カ農ノウ政セイ全ゼン書ショ小コ載サイせし芋イモの諸シヨ名ナ細
目メ子コ所シヨ引ヒけ廣クワ志シとハ既ス小コ差サあるもの亦モありト農ノウ政セイ全ゼン書ショ州
作サク車シャ穀コク芋イモ本ホン州シュウ和ワ名ナ作サク車シャ聲セイ芋イモ又マタ勞ロウ巨キョ芋イモと細コ目メ作サク旁ワキ巨キョ芋イモ
又マタ青アヲ滬ウ芋イモ網コ目メ作サク青アヲ邊ヘ芋イモ其ソノ他タ雞ニ子コ芋イモ雞ニ窠ソ芋イモふと凡ツ元ゲン
者モノ更マハ同ドウ種シュウなる也○豐トヨ後ノチ風フウ土ツチ記キ曰ク大オホ足タラシ彦ヒコ天アメ皇ノミ景ケイ行コウ遣セン
んトとトおトはト尾ビ尾ビ也ト○豐トヨ後ノチ風フウ土ツチ記キ曰ク大オホ足タラシ彦ヒコ天アメ皇ノミ景ケイ行コウ遣セン
菟ウ名ナ手テ治チ豐トヨ國クニ往キ到ト豐トヨ前マエ國クニ仲チュウ津シン郡クニ中チュウ臣シン村ムラ于ニ時トキ日ヒ晚マン偏ヘン宿シュク
明日アシタ昧マク爽スウ忽コト有リ白シラ鳥トリ從ツ北キタ飛トビ來キ翔セウ集シツ此ココ村ムラ菟ウ名ナ手テ即ス勸ケン僕ボク者モノ

遣ツク者モノ其ソノ鳥トリ化カ為シ餅ホウ片ヘン時トキ之ノ間マ更マ化カ芋イモ數スウ千セン許コ株カ花ハ葉エフ各オノ榮サカ菟ウ
名ナ手テ見ミ之ノ為シ異イ歡カン喜キ曰ク化カ生シ之ノ芋イモ未マ曾ソウ有リ實ジツ王オウ德トク之ノ感カン乾ケン坤コン
之ノ瑞ズイ既ス而シテ參サン上ジョウ朝テウ廷テイ舉キョ狀ジョウ奏ソウ聞ブン天テン皇ノミ於ニ是ココ歡カン喜キ之ノ有リ即ス勸ケン菟ウ
名ナ手テ曰ク天テン之ノ瑞ズイ物モノ地チ之ノ豐トヨ州シュウ汝ニ之ノ治チ國クニ可カ謂イフ豐トヨ國クニ重ジュウ賜キ姓セイ曰ク
豐トヨ國クニ直チツ因イン曰ク豐トヨ國クニ後ノチ分ブン兩リウ國クニ次ジ豐トヨ後ノチ國クニ云ク々ト○和ワ訓クニ禁キン曰ク何ナニ
内ウチ國クニ古コ市シのノ一イツ郡クニ八ハチ芋イモと生シ也ト伊イ勢セイ國クニ三サン重ジュウ郡クニのノ一イツ村ムラハ
ハ生シて食シふべりらむ○續ツグ今イマ昔ソノ物モノ後ノチに依ヨ波ハ洋ヤウ中チュウハ
て南ナン風フウハ飄ヒウさ水スイて北キタ狄テイ國クニ子コ漂ヒウひ急キウ時トキ頭カウと白シラ巾キンと
て法ホウいふ法ホウ人ジン極キョクて也ト多タくさして不フ動ドウと云ク物モノと芋イモ既スを
食シせふと也トと記キすのノ梅ウメ子コ蜜ミツ牧ボクの地チハ芋イモ既スと食シとせ
る國クニハ互ニに有リぬるト也ト巴ハ貳ニ國クニ

ハ南天竺に近き島ありて五穀ハ絶くなく芋芋既に
て糧とあはれよ此俗多しあるハ徳恵一と益は立
とく親とていと老と喜ふの仕あり但芋芋と多く
する家ありていと老と喜ふの仕あり但芋芋と多く
如るやりにいと老と喜ふの仕あり但芋芋と多く
且國のまは巴且杏 ○徳然中子仁和寺の法系院に盛観
乃更よふべし 傳却とて登むおとあま智者より芋芋と云ふもの好
て多く喫り談議乃座かても大ある許に堆く盡く總
下子虫の食か望ら書と讀り患ふ事ありふハ七
日二七日かど療治とて藝居て欲ふやうに良芋芋と擇
て多く喫て万の病と愈一に人々に食せらる事なく唯獨
の多く喫り極て多しりりるに中道はさ由に織

二百貫と坊一舎と讓りりると坊と百貫に賣て彼
此三万疋と芋芋の料足と充て京ある人子願て十貫
づゝ死きて芋芋と之の食らる事食らるに又他用は消
るることかくて芋芋と之の食らる事食らるに又他用は消
子載閭皂山一寺僧甚專力種芋芋歳收極多杵之如泥造壑
為墻後遇大飢獨此寺四十餘僧食芋壑以度凶歲○李泌
本傳云泌在衡嶽有僧明瓚號懶殘泌察其非凡人夜往謁
之瓚發火芋啗之曰勿多言領取十年宰相據芋は五穀
に亞て能人の飢腸と充たすめは冬春の間收蓄する子益
める者あれば甘藷のまだ入来らざる前つゝは芋こ

是城勸作て上下の限らむ朝夕の食誠勸志めり歳
 おとりの元日先は併へ始て芽出さず瑞みつらひる
 凡芋ハ冬より春半に至るまで味長きり其他月ハよろ
 しむるを内膳式にも正九十一十二月のめヶ月は併
 進むるよし載られし周禮注諸瓜匏葵芋為禦冬之具唐
 書章仇置成都市誓文云大亂不亂蜀有廣漢大饑不饑蜀
 有蹲鴟也又說苑の種芋三十畝省米三十斛種蘿蔔三
 十畝益米三十斛則知蘿蔔果能消食と見えり或曰漢
 の三十畝ハ本邦の一町歩のどに尚ほ一町歩の積
 かして芋の石高はなご、考るに一段歩の出来芋六十

俵と見て一町歩は六百俵也是を石に換はり三斗俵の
 積ふれば百八十石とあり而米三十石ハ一步一斗積
 かして一段歩は三十石の出来なれば一町に三十石あり
 同く一町歩乃爾實芋ふれば百八十石米ふれば三十石
 と云へば五倍の差をかし因て漢人を芋とられば
 米三十石と省す大根と併は米三十石と益はべしと
 ハ云ひる志あるに芋を米の如く糧と見るに朝夕芋
 一斗を食てハ腹を充ざる耳あるは繪や畜肝のりて他
 此動あるは又一斗の米は一步の地よりある積みすれ
 ば二斗二斗ありては五合増ありて一斗は取がし
 一歩
 二歩

毛とつゝハ上田あらでハ稀あり二歩の出毛米一升く
ハ二歩あて一升取の積りて
らし食ふてハ急業せし後子は食飽ざるべし而も芋は
一歩畑子四通作り一畝も科とし一科の芋子二十と尺
る時ハ芋取四百取あり一升六十取の積りて朝夕二
升分の芋百二十取食しあむ子は農夫は腹鼓をうちて
俗をけ苦勞子は泣きしき也此科て尺るよ一歩の芋
ハ三日乃糧とあり一歩此米は一日の糧とある芋もく
芋と米との損益を知らぬべし此芋は塩害災と為暴風
吹格とも條の化地不ぞハ傷ざる也さるも外ハ化
地より入ハ容易くて恒蔵るに地と易ざれど出米わ

ろし又早して焼る年は刈取と露ひ土と翻りけて化の
傷ぬやうに介錯するハあるも凡土と翻りてハ地
を熱め曠と遠さぬ為あり土ハ厚ても堅きれハ曠と化
里て根と傷以拾遺集の歌もあ月土さ一はけて照
る日子も水の神子やいも子あるも一はけて芋
に比無きり炎天あは土ハ厚く墜ても堅きれハ曠と化
薄くても柔きれハ芋の根と乾さぬものぞあ一は
里固てむりしあ里土は翻りては熱つ、化地の根も
培墜おと錢子あはるのしある

莖葉氣味冷滑にして蒸し無毒○主治曝乾焼て性と存

し貯ふべし ○小兒の黄水肥瘡カ研リて搽ツべし 經驗 ○蟬ハチ
 螫サ子生芋此ツキ茎ツキ破レり汁ヲ塗シばその毒ス解ス本朝ス方シ宋ス寇ス宗ス
 龜カ行レ義シ ○凡ニ盆ニ水ヲ或ハ廢ニ井ニ中ニ子カ土カ蟲ヲ何ヲを知らずし
 子ヲ出スり ○暗ク中ニにモ各々杯バ土カ蟲ノ人ノ鼻中に入テ子ト種ヲ血ヲ
 絡レ吸テ終ニに艶に至ル故ニに誤て土蟲鼻孔子入ルば芋
 莖ガの汁と絞て鼻中に滴シべし蒼芋ノ莖又子妙あり凡芋
 莖トモテ土蟲子觸れを觸レ子生て輒ち断絶ス也 活筆談
 子此等ノ弱シ ○芋叩氣味平滑小シて小毒アリ ○主治小
 兒ノ軟癩子搗て泥の如くし瘡上に塗極テ效アリ也 本朝ス方シ
 ○竹本の刺の立る或拔キ子ハ家芋一味生カら 經驗朝研リ

て瘡ノまらり子附シ酒ヲ飲シおはましを知れバ槎牙拔
 るあり ○灸瘡の愈さる子ハ里芋根ヲ搽シ小麥皮ヲ燒キ雞卵の
 白之以上三味一子合せて附合シ ○凍瘡と治子ハ里芋
 裏焼小し糊子押ませ附べし ○酒刺蟲ハ銅ノ銹屑梅
 干里芋以上等分子合せ附る子ハ紐雞卵小く調附べし
 ○竈瘡子ハ里芋硫黄朱少以上と漆子押合せあら
 ぐり子押込シ紙と蓋シて其上に膠と引テあらる
 堅カる子は家芋ノ葉番椒
 塩堆芋四味等分細末小し糊子附る子ハ水は一斗量
 絲あり ○又方島芋の莖粉ヲく附べし ○凡ニ蛇傷子里

芋 大生 黄檗粉 中 研く びしにめり 附べし ○ 蜈蚣の 蝮さる
 みは 里芋の 茎 接て 附べし ○ 蜂の 蝮さるにハ 芋 附と 破
 て 蜂の 脂と 措て 塗べし ○ 又 烏芋の 汁を 附てもよし ○
 黄芋の 茎乃 汁 附べし 若かき 時ハ 根と 措附て 亦よし ○
 又 丹輝 窠 藍系 芋 附以上 四味 各等 分 細末 して 附べし
 ○ 湯火 傷み ば 里芋の 汁と 研て 附べし ○ 又 方里芋 した
 黄檗粉 輕粉 等 分 合せ 蟄纏の 汁 して 福やし 紙子 着て
 やけどの 上 附べし ○ 又 方里芋 末 茶 輕粉 三味 里芋 皮
 少し 割水 入を 粘く けよし 末茶 入 又 ハウヤ 等
 分 入 よし 細く 煉 細く 附べし ○ 又 燒身と 治る 又 火傷

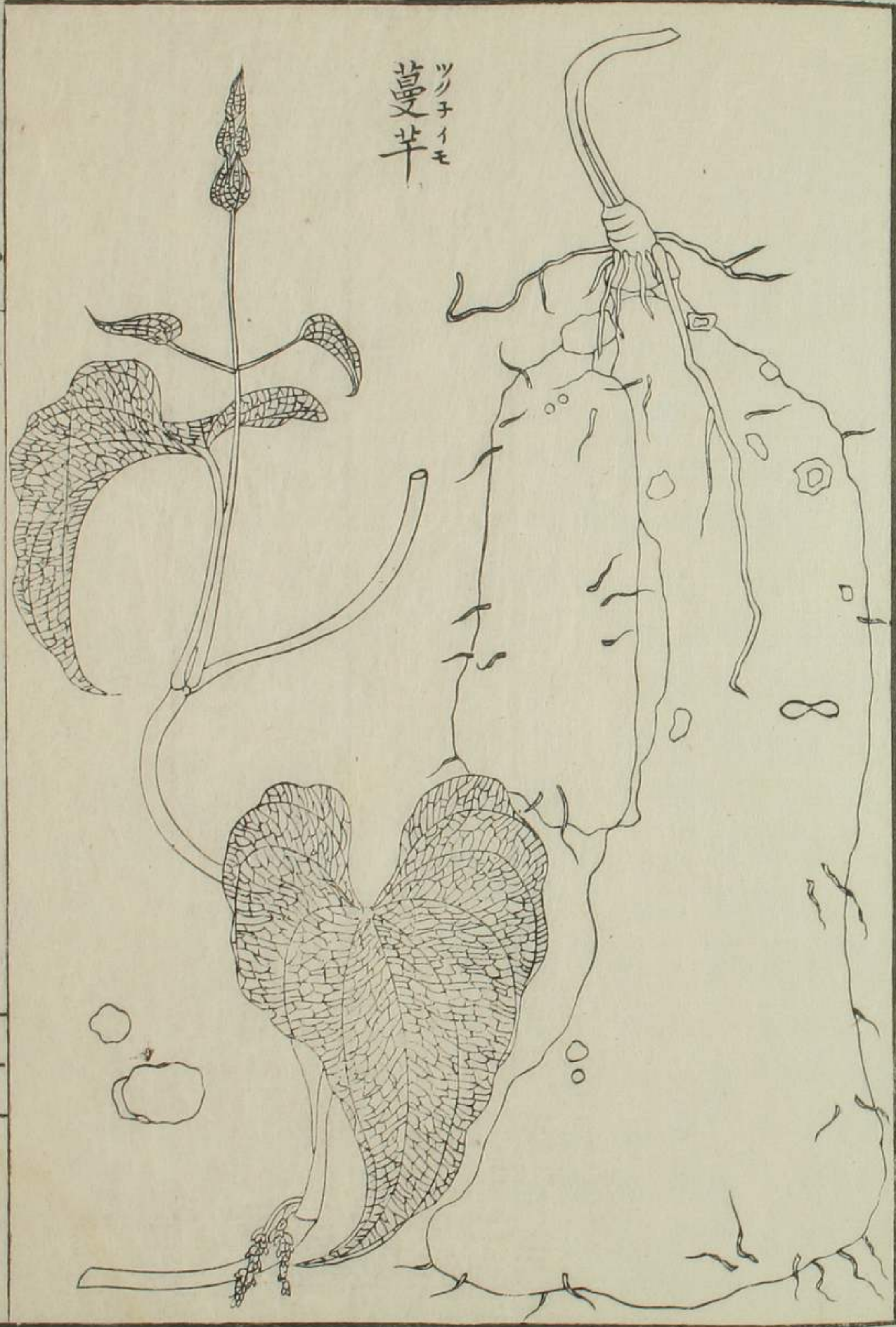
里芋 苦竹 袴 等 分 黒焼 細末 して 麻油 して 煉り 附べ
 し ○ 齒 抜むと 效 せは 芋 茎の 黒焼 の 搗栗 の 粉 各等 先
 齒 刺し 針と 刺て 跡 此薬を さんべし 針ハ 二 三度 以
 べし ○ 一切の 腫物 口 弄 した 時ハ 乾芋の 茎 葉と 一 夜 煎
 じ 浸し 日 乾 黒焼 じ 細末 して 糊 する 好 やし 口の 氣
 厚 煎 じ 附 愈 効り 針を 忌む 所ハ 最 よし 一 粒 の中 に 吸
 出 じ ○ 潰瘍 愈 効 古 手 芋 楨皮 以上 等 分 粉 じ 梅 酢 子 合
 せ 附べし ○ 蟻 咬 じ ハ 白 夕ウ 芋の 茎 汁と 絞て 塗べ
 し ○ 療 疔 和 名 鈔 引 集 驗 方 療 疔 血 氣 否 澁 而 所 以 治 子
 基 芋の 白 根 一 味 黒焼 じ 粘 飯 子 して 志 する ぐと 押 合せ 附

べし○又方里芋一味鍋黒少し加へて研合附べし○小
 兒の侵淫瘡ハ里芋小豆粉二味芋と研て小豆の粉と
 研合附べしそのまゝ汁を吸ひ出して愈あり○又里芋一
 味と措附るもよし○又方釜墨と豆腐と瓜搗交附てよ
 し以上和方○凡芋の蒼子者ハ蓼葉或ハ生薑と入て煮
 べし毛蒼と消以み芋汁の蒼氣子中アくる時ハ嫩腫る
 あり速く蓼葉と揉て傳べし
 石芋相摸等の國のていふ又水芭毒芋亦曰大師芋俚
 弘法大師通子候て芋と洗ふ婦人の遇へるに之とて
 此芋毒子化りと大師芋芭蕉芋南
 此芋毒子化りと大師芋芭蕉芋南
 此芋毒子化りと大師芋芭蕉芋南

蓮 早金蓮 觀音芋 佛龕花 御魁 花曆
 花以上鏡 汝南 史 百詠
 海芋 野芋者 天荷 白花大乙蓮 圖會 一瓣
 蓮 早金蓮 觀音芋 佛龕花 御魁 花曆
 花以上鏡 汝南 史 百詠



此自生の毒芋あり莖葉深緑にして光澤あり博物志云
 野芋ハ于家芋食之殺人蓋藪也本州中ハ野芋ハ大毒
 不可啖之よし及えり志あるに南島の地此芋の多
 く一ハび荒鮫子遇て死と免くれ驚く時ハ已おと
 けずして此芋の多かり砂糖子知て煮食ふと其里
 而其毒子中アくる者亦少くはを唯毒解腫て患ふと云



蔓
芋
ツ
子
イ
モ

薯
蕷<sup>マ
イ
モ</sup>



京子産るものありて亦家園の生を三四月に交宿根
より苗と出づる蔓と成る葉子従道の光澤ありて軟
老くふれを三尖ふらわ其根大くハ蔓亦従て若し申
夏の頃葉間に細花さく棘の毛子頗似たり色白きと
紅とゆり安ありて中秋の月にて熟り圓扁大小
む色梨子に似て是亦味佳しく生を熟するを食ふべし
即糖子あり和名鈔引拾遺曰零餘子一名庭杖加古署預子
部子零餘子あり也○俗呼加古子ともいへり庭杖加古署預子
清盛ハ院の白河帝の御子ありてその名盛子房懐妊
んけ月の子の時清盛の義父と盛子房懐妊の
三氣のど地保元の子の秋は白河院時下すれり此子
患

威北の面にて世奉りて
いの中より枝か、
と坊の志ろく廠寛ありて
とて作せし活ひし女
あはれに油か子とせふと
思へば乃連秋と仕る
りりはと梅と白河院
のの後三盛と名づくる
とて清盛と名づくる
ふ位の世傳不伝子
人かかちの事けり
に乃じけり
乃乃じけり
眼院のい書者あり天子乃清眼病を療治し
成形圖説卷之二十二
二十

どかありされど新井氏の筆を問信られぬ中其れは
此事をいりては、今昔の物語に吾一志祖の事、或は
かゝりし、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
家子仕つて、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
子係て、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
會より、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
しと、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
と、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
出に俗に鼻當と稱ふ、女児輩が来て鼻を嗅ぎて、鼻を
ある、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
○根、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
八月、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
の、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
山野、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
中者、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
葉、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
似家、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
山藥、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
而根、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
極細、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
瘦硬、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
亦名、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
野山藥、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、
と、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、或は、

ハ彼土産志あり、子こも、以間ハ山生を大あり、はわす、身
也、さて、其後、土黄、色内ハ、潔白、ある、木と、雪乃、おとし、性滑
て、意美、しむり、し、り、上、膳、子、付、し、署、嶺、粥、て、お、名、ハ、順
紗、雜、要、等、子、載、嘗、り、宇、治、指、造、子、い、を、粥、を、利、仁、乃、調、へ、事
る、子、切、の、三、寸、也、さ、お、尺、此、い、も、と、て、造、是、里、と、海、り、本
邦、薯、蕷、の、大、あり、木、と、ハ、是、い、ど、川、子、く、も、さ、く、は、べ、し、
粥、は、遵、生、ハ、○根、と、擦、て、泥、く、と、お、せ、し、と、く、ろ、汁、と、い、
不、難、邊、さ、る、と、い、し、意、あり、庭、洲、健、子、湯、汁、を、云、く、署、嶺、
豆腐、など、い、つ、り、山、芋、酒、と、い、ふ、木、と、凡、大、和、山、城、丹、波、近、
江、紀、伊、等、に、産、る、山、芋、茹、し、中、國、西、州、あり、東、陸、山、形、日、光、

富士郡内練間の法地まゝ宜し○凡零除子と種て之四年を種き根成る切芋キイモてハ根を切て筒ツツうゝ也今春寸許切ると植るにハ年中乃ハ六寸子あるその○仲繩子卵芋タマゴイモと称しあり大さ雞子のぶらゝみて長し是ハ化芋ワライイモあり○茨皮刮去て陰乾カゲカヒするハ山薬といふ薬のお子粉とあへ籠モクシ子も熟シク子を洗くる但切キル子鉄テツを忌む候刀子コバ編コハ色黒く裂る竹アサヒの鎮鑰シムカキを用ふべし○山芋カハダの川カハダ子ナトに生て根端サキは水ミヅ子サゆゝゆがそま、饅マモ子サ化ナリしは人の尻シラしおどゆり性の滑ヌルうある理或ハ然るべし圖會ツ子サ暑蕪シ感カ風水フ而變ニ饅マモ見ミ半變ハ者シ人往ニ々有ク之レ也載ツり或俳諧ハ子サあなうかぶいゆくの里サハいおとせ

以ツさツりテ煮ク子サ似シ焦ヤをラ宋朱晦菴山薬詩子怪来朽人妹イモ兄ケイと芋イモ漬ヅクにシくツりシ壤耀瓊英ニ小コ斲ツク傾カ筐カ可カ代ト耕ク拳ク豹ハ於ニ人ニ儘ニ無ク分ク蹲ク鷓ト從テ此ニ不須ク生ス雪ユキ鏡カミ但シ使シ人ヲ長ク健ク石ノ鼎ノ何レ妨ガ手ヲ自ラ烹ク欲ク賦ス玉ヲ延ク無ク好ク語ス羞ハ論ニ蓬ト蜜ト與ト羊ト羹ト

氣味甘滑毒なし○主治夢遺子ハ山芋一葱一白一五分塩一少一酒一子一て煮て吃ス赤一珠一○又方烏一藥一益一智一朱一砂一水一各一山芋二と研リて糊リし以上一の藥一末一と丸一めて多ク服ス簡一便一○石一子一どよテ折リ傷ム子一は小一黍一大一山芋一小一雞一子一煎ス一一女一青一蜜一中一以上一四味一研リ合テ酢一中一醬一油一少一酒一少一入リ搗リ合テ附テ布一上一子一を貼リべし○灸一瘡一と治ス以テ子一ハ山芋一粟一實一分一各一等一杉一の嫩一牙一少一

右三味擂合也附至し○目子浮腎の入る子ほ山芋
 五月子取り様安分各等以上二味よくく細末おして蕪の
 陰干して吹入べし○又お同とみ突目子山芋一味粘くと擦し
 管ちて吹入べし○又お同とみ突目子山芋一味粘くと擦し
 傷む所子附至上子残と附べし○血湯或ハ金傷かど子
 血走と止るハ山芋目生百牛房百生二以上二味小口切
 おして空申の各に三日おど漚し晒し乾し細末おして
 米飯おくとヒ一げ、用ゆべし○湯火傷みハ山芋一味研
 て附至し瘡おく愈るあり○又山芋粉硯墨三味擂合
 せ附べし○又山芋生ハ奈良漬の糟分各等或擂合て附べ
 し○又山芋朽索焼この二味より合セやあゆの煮に附

べし○又山芋だよりく黄柏水おし出此二味黄柏の汁おて
 煉調て附べし○乳腫痛忍ぶ愈くさる子山芋と擂て
 貼べし以上和方○八味圓腎氣と弱く肺経いとも小
 憎り面色驚思く飲食せざる及虚勞とてつりれ弱く同
 加わら小ほ多くみ滞り肉と痛し但人ハ轉胞とて小便
 塞り山菜蔓根と去て肉と痛し但人ハ轉胞とて小便
 子牡丹皮中の本と澤瀉各三熟乾地黄八附子炮こしら
 但常に久く飲む子ハ附肉桂兩以上細子替篩の煉蜜お
 て搗合て○是れどに丸し毎服十五丸ハ廿五丸三十
 丸五十九人の分量痰の輕重と計て與ふべし温ふる酒
 おて空心子一日に二度或ハ三度を服べし久く服バ元

陽と盛少し精髄と益し血と生し顔と駐め志と壯し身
 成健小石○龍齒鎮心丹心腎不足驚悸健忘夢子怔忡小
 心と遠志と山藥炒地黃炒天門冬去心龍齒水飛各
 麦門冬去心五味子車前子炒白茯苓去心茯神去心地骨
 皮把拘の桂心各五と磨篩て蜜と以て○是れに丸め
 毎粒三十九粒ハ十九粒、空心子温了酒了とと
 湯了と意了子任て服あり○腎虚補藥鹿茸丸と号く鹿
 浸し一茯苓二海藻二支研て醬子浸山藥三兩研て醬子
 夜置く茯苓二海藻二支研て醬子浸山藥三兩研て醬子
 五味子二甘草二胡椒二一分川芎二八味細末少し篩て甘
 葛了と桐子の大きに丸め毎粒片一丸毎日三粒温酒

小て服了白木と煎し後と宮上あり○薯蕷除病散薯蕷
 五蛇了子二續斷一白水二五味子二甘草二胡椒二黄耆
 二杜仲二人参二十味細末了毎粒一錢毎日三服温酒
 子了と又百日の間案の湯了と後ば腎の虚損と後了
 ○神仙腎勝圓茯苓二支疎皮と白木二黄耆二肉蓯蓉
 二山藥三巴戟皮二鹿茸二酒子浸し一陳皮二甘草二
 桂心三丁子三胡椒一人參二蓬莪木二乳香二五味二
 末了と拌合て甘葛了と梧桐子の大き了丸め毎粒廿
 一丸荆芥湯了毎日三服了と腎氣と調へ陽莖と
 硬淫了と虚勞傳死了より下腹淋病皆愈了○男子の陰痿

て起らざる起く大あゝど大あゝて長々らどもして堅か
 らざるして久し切らざるして精あゝど精落て冷き子
 ハ肉、茯苓、鍾乳研、地、牀子、遠志、續断、薯蕷、鹿茸各等、七味
 搗篩蜜みろ丸の梧桐子の大ききど、食前シ子酒子ろく三
 十九づ、服みお十日、效見え百日子、仙子、通りの徳
 あり○又方、陰痺丸、續断、薯蕷、附子、遠志、蛇、牀子、肉、茯苓、各
 分と散みし蜜みて小豆みどに丸りおと五十九○又
 小菟絲子、圓菟絲子二、茯苓二、山藥三、石蓮肉二、細末此丸
 温酒みて五十九づ、搗みべし○又方、遠志丸、痺起男女七傷陰
 用、續断四、薯蕷二、地、牀子二、肉、茯苓三、遠志二、のみ物と雀

卵み和て豆の如く丸の五九づ、日み二度服べし○定
 志丸、丁子、桂心、肉、茯苓、胡椒、望、垣、革、菝葜、砂、陶、砂、以上等分
 粉みし酒、醋み入合て丸の女、陰、内み搗入並ば歡喜以又
 胡椒、山、桃、皮、望、垣、三種と薯蕷とみをし、搗めて女、陰、内に
 入べし○鹿角、散、鹿角一斤、清、水み、地、骨、皮、薯蕷各八三種
 細末し二錢酒とて日み三度服おみ三種と搗み篩み散み
 し津液み和て玉、莖、上子傳て陰、門み入強盛、振、動の藥み
 日○歡喜藥、白、玉、露男女交、會の液あり是と煎み深お肉
 茯苓、桃、毛、秋、石、山、藥、山、藥、酒子浸し粉み以共み散みし
 用み○加味、腎、氣、圓腎虛多腰、重く足、附子常の如く白、茯苓

成形圖說卷之二十二
 二十八

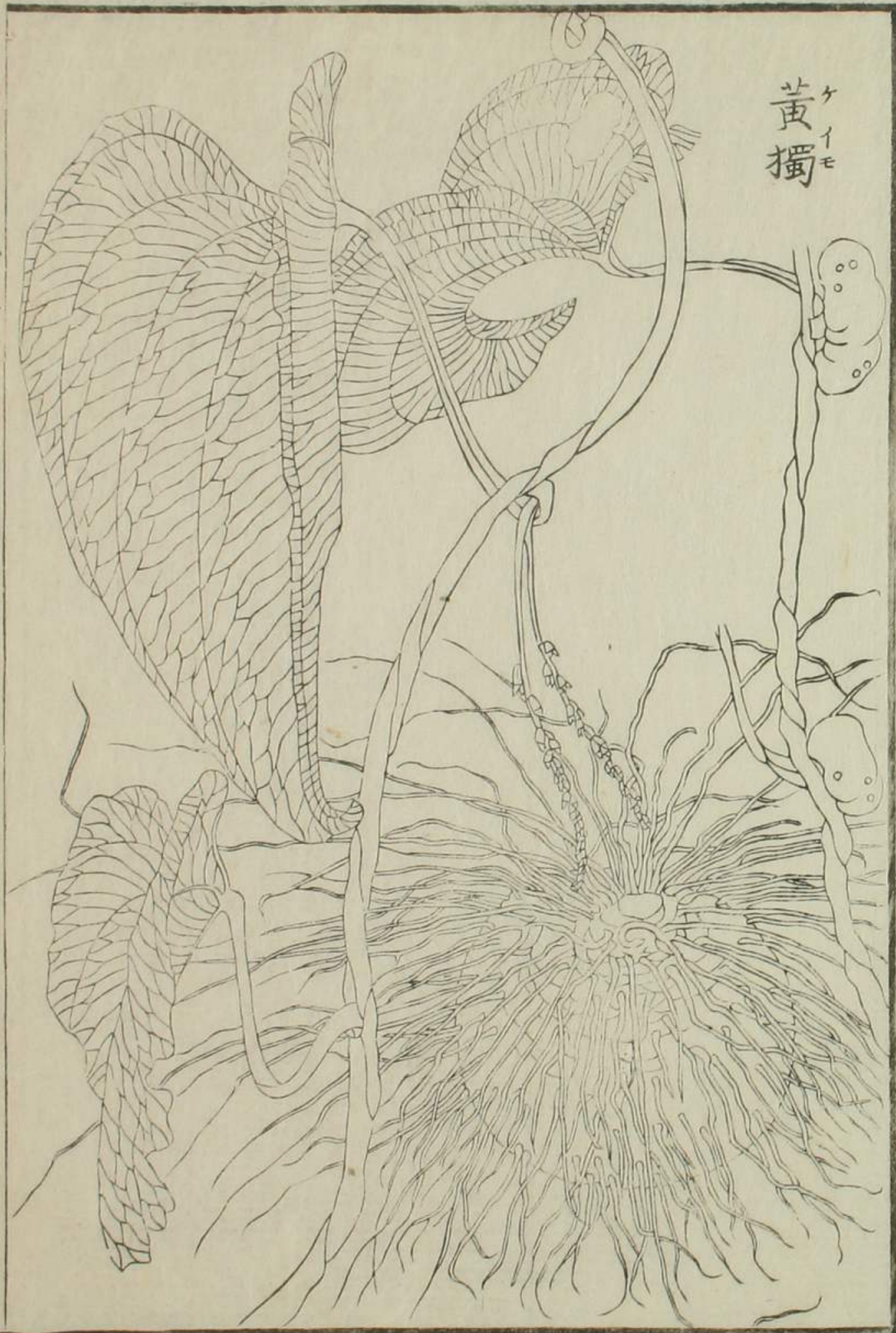
苓皮と車前子 酒子乾し 粉し 煎して 山菜 萹 核を去て 山薬 少
 炮 澤泻 牡丹皮 中の木を 官桂 粗皮を 去らば 牛膝 株と 去して
 熟乾地黄 炮 各二枚 細子 搗篩 以蜜子 煉子 ○是知どに
 丸め 每瓶 七十九 づゝ 空腹 子コレウ の湯 中て 服べし ○
 萬靈丸 薯蕷 蒜 虚勞 腹痛 の薬 七先 蒜 一本 剥之 風を ひり
 だ 次子 薯蕷 大指 の大さ ちる と 長さ 六寸 皮を 剥て 薑擦
 ぶて 剥さる 蒜と 竹刀 ぶて 細子 割つ 搗鉢 中て おろし
 る 暑預と 入合て 至極 搗和て 良酒 涯分 ぶら ぶら 量て 湯
 め 飯べし 初日は 一本 二日は 二本 三日は 三本 如此 次序
 に 四月 四本 五月は 三本 六月 二本 七月 一本 次子 減し

中 婦とに 服べし 一日 子三度 づゝ 飯 ぶら ぶら 一方 子 蒜 三升
 炒 杏仁 一升 或一合 香色 煎 三種 羅の 袋 子 入て 酒 一斗
 五升 蒜 八升 刀 切て 入 専と 宜し ○ 以上 萬安方
 入 子 蒜 酒と 云 諸 腹痛 子 宜し ○ 以上 萬安方

捧芋 ^{ツクキイモ} 字鏡 子 捧 字と 手 豆 久 年 又 已 不 之 引 子 書 子 捧 八
 攪 者 故 名 希 之 東 國 子 根 状 似 佛 手 柑 而 肥 大 如 攪
 杵 芋 大 和 宇 多 那 宇 智 那 子 子 合 者 者 つか 好 芋 の 露 上 ち
 銀 杏 芋 亦 大 和 芋 宇 治 芋 手 芋 四 國 形 の 掌 乃 如 也 唐 芋 津 膚 美
 芋 仙 臺 〇 物 類 稱 呼 子 芋 志 云 一 屈 手 也 和 名 古 不 之 加
 嶺 芋 野 上 拳 芋 子 南 島 土 和 名 鈔 子 拳 屈 手 也 和 名 古 不 之 加
 成 形 圖 說 卷 之 二 十 二 二 十 九

字鏡子捧字手豆久年... 通云握手謂之拳... 非手即拳也... 仲健人拳... 凡有方コフヤ... 子又島人の拳術... 演習せる... 八の米... 手突... 拳の... 同し正字... 出てハ竹筒と樹皮に... 破く古の... 拳の... 衝止る... 技を加... 生此... 之字類術ハ和名引... 唐韻相... 據以手... 如物也... 和名... 付... 近委明人... 昔... 有り... 今... 異... 一... 種... 根... 煎... 煮... 食... 俱... 蔓芋... 廣志蔓芋... 綠枝... 生... 博士芋... 農政全書... 引... 風土記... 佛... 掌薯... 鎮江府志... 綱目蘇... 頌云... 江湖... 中... 一... 種... 根... 煎... 煮... 食... 俱... 美類冷於北地者耳... 彼土人呼為薯... 南北之產或有... 不同故形類差別也... 此間のつく為薯芋ありべし

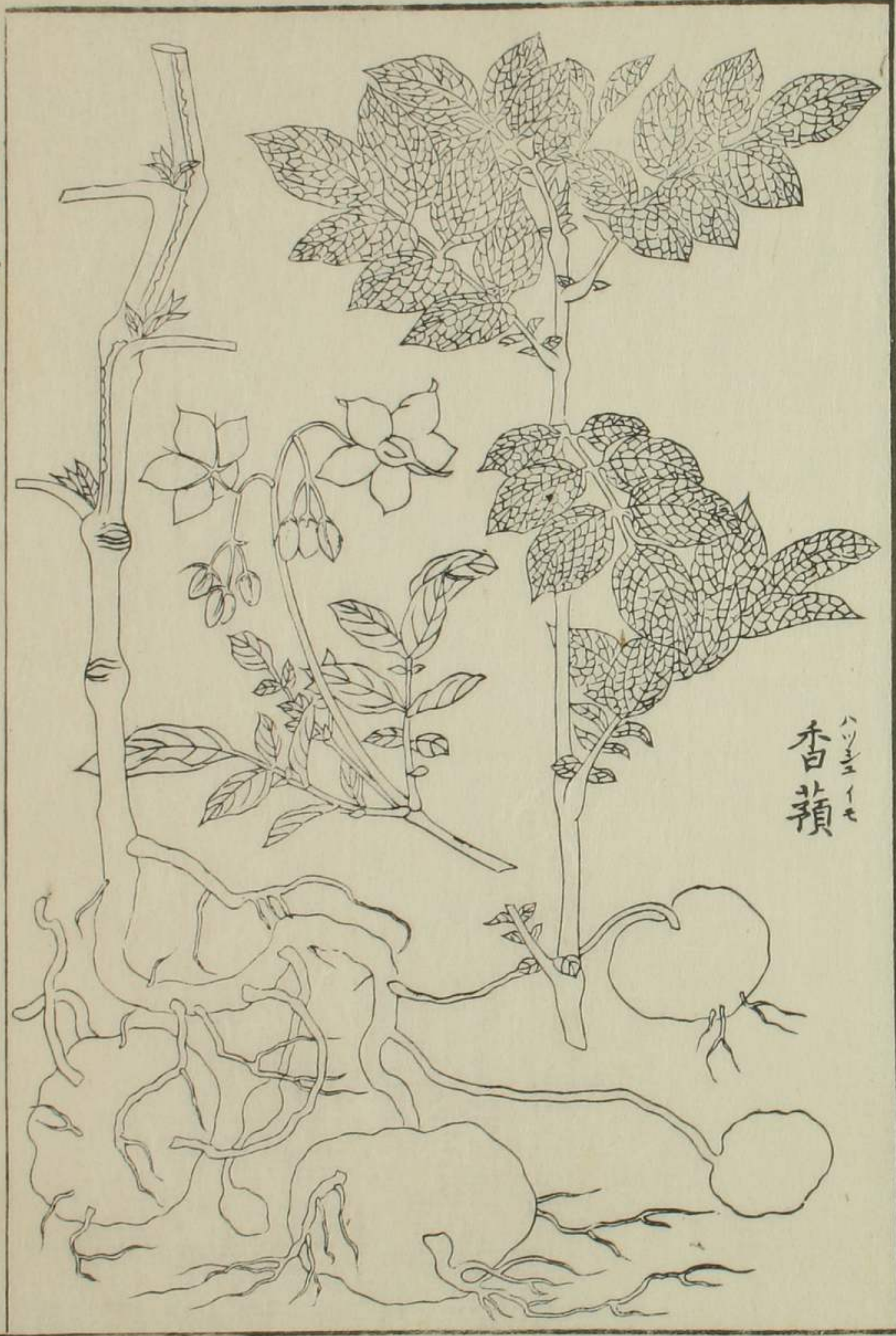
つく餅芋ハ蔓生... 大和地方の産ハ魁... 薯芋... 亦絶... 今... 依... 不... 子... 作... り... 但... 粗... 有... 薯... 類... 芋... 大... 如し是吾南島の拳芋と同類... 不... 但... 南... 地... の... 産... ハ... 大... 小... し... 粘氣厚し... 仲... 港... 海... 見... 芋... の... 南... 徼... 子... 之... 極... 子... ハ... 園... に... 一... つ... 穴... と... 掘... 日... 踏... 種... 類... と... 入... 壺... て... 芋... 頭... と... 或... 子... 切... て... 切... 口... に... 居... り... 塗... 穰... の... 上... に... 居... り... 土... と... 被... お... く... 時... ハ... 一... 年... 所... 一... 丈... 三... 尺... 圍... ち... と... る... 一... り... 早... 春... 茹... を... 食... し... 漸... く... 長... て... 樹... 竹... に... 施... 縁... 生... り... 茎... 淡... 紫... 所... 一... て... 紫... ハ... 小... 芋... 菜... 乃... 端... 尖... き... 白... が... 如... し... 根... 子... 細... し... 外... 土... 芡... 包... 肉... 淡... 紫... し... 味... ハ... 粗... 山... 芋... 子... 劣... る... といへど... 大



黄獨

承攬かどに盛子一杯子見事あり○味間のつく孫芋ハ
 研深して煎粘く味留豆汁和てとろ汁とかし山芋
 子婦きり
 主治研搗て汁と外湯火傷子附て即愈り

毛芋根芋魁のおどくて硬
 何首烏芋或ハ毛芋何首
 大頭久比米西
 黄獨鎮江府志明道雜誌云黄獨其根唯一顆而色黄故名○
 如芋而有黄精冷齋夜話○山艸類山藥葉大而稍圓根
 鬚味微苦黄精部別子同名山艸類音文子地黃と凡ハ
 の訛ふるべし芋藤葉類薯三月栽夏開細花作穗淡紅色
 ○邵武志云古薯藤葉類薯三月栽夏開細花作穗淡紅色



ハツキイモ
香蕈



ホド
土芋

實乃別生不附花形如蒜瓣而圓
黑色周圍有細圓點其點微高

毛芋ハ藤生ツクシ不ツクて葉宛ハナから薯蕷ヤマイモ不ツク類ツクく稍長ナガクく色深コクし
野生ノコふし團圓ハツケ中ナカ小種コシノ藝レ了レ棚テ子コ搭タし引上ヒキアゲに晚夏オキナキ紫間ムラサキ子コ
花ハ我ガく暮秋ムスカシの根ネ成ナリて實着ミツクく暖地ヌク子コてハ紫ムラサキ子コ虫ムシとせ七
聖ホウ而シテ其根ネ團マツに大オホさ斗タテの如ノく毛多モウタし外ソト土黄ツチキナク色肉ニクハ微黄オウキョウ
好里味コウリ畧リョウ家芋ケイモ子コ似ニて粘ネと疎スむらぶるあり
是也コレヲ其根ネと乾カし蓄タマて明年トモシロ此種コノシノとちやり○葉鋪ハヤシ或ハ偽
て何首鳥ナニノウと糸イトし鬻ウぐとを云イハへ里サト○上總ウツノ所トコロよりみて大
ツツと呼イハる湯ユ子コ倫リンし埴ハ成ナリて朝アサ夕ユフの飯イハ子コかて、食クハへ

里

保ホウ度ト即ス土芋ツクシ而シテ字鏡ジキョウ等トハ百部根ヒャクブクと富度トヨトと
保度ホウトハ中男ナカヲ女メの陰カゲ乃ノ名ナ故コに根ネ顯ア度トと云イハふ薯蕷ヤマイモ名ナと
以ヨ百部ヒャクブク白シロ藪ヤブ乃ノ如ノ子コ然シカ本ホ和ワ名ナ子コ蘇ソ魁ケ一ヒト名ナ土芋ツクシ
土芋ツクシ和ワ名ナ為ナリ乃ノ止ト々々岐サと芋モとトは別マ物モノ也ナリハ決ツめ
瓜ウ通ツ雅ヤ○王瓜オウカ名ナ瓜ウ亦モ遺ヰ土豆ツクシ目メ土團ツクシ兒ニ地栗チリ荒アラ木キ救ク土ツ
瓜ウ通ツ雅ヤ○王瓜オウカ名ナ瓜ウ亦モ遺ヰ土豆ツクシ目メ土團ツクシ兒ニ地栗チリ荒アラ木キ救ク土ツ

此コノの山林サンリン子コ生ナ以ヨ亦モ人ヒト家ケ子コ種タネるあり蔓ツクシ細ホソクく紫山芋ムラサキ子コ
似ニて五葉イツバ一ヒト葉エフにニ出イル根蔓ツクシ毛モウく連ツクシ茄カて卵タマゴの如ノく芋モ許イッ多ク

色着^{ツク}味甘美^ハ一^トて亦山芋^ハ似^クり北地奥^ハ子^ハ裂^レし
灰汁^ト以^テ煮食^ス但^シ漢^ノ忌^トとい^ハ一^ト種^ハ八^升
芋^ハ番^ノ名^スア^ルトア^ツフ^ル農圃六書云香蕷味淡甘大者
如雞卵小者如彈丸種法二月鋤地成溝入種用雞糞灰蓋
夏開發藤以竹引之十月起土煮頻滾點茶甚妙○嶺南雜
記云土芋形全似芋但味少淡而無香と^ハ可^ク珍^シ食物本
艸子香芋一名土國^ノ兒^ト可^クハ^ハ誤^リあり

成形圖說卷之二十二終

